

任意団体まちなか研究所わくわく 平成 16 年度事業報告書

目次

Ⅰ. 運営に関する事項

1. 定例会の開催
2. 常務会の開催
3. 特定非営利活動法人設立に向けて
4. その他

Ⅱ. 事業に関する事項

1. まちづくりに関する調査研究
 - (1) 勤労者ボランティア受け入れ実態調査
2. まちづくりに関する政策等の提案
 - (2) なはまちつくる議会
3. まちづくりに関する情報収集と提供
 - (3) 地域情報誌「み～きゆるきゆる」発行事業
4. まちづくりに関する参加型の話し合いの場の企画・運営
 - (4) 字砂辺市民農園・公園ワークショップ
 - (5) 久米島地域福祉計画
 - (6) 牧志第二公設市場跡地整備計画意見交換会
5. まちづくりに関する建造物・印刷物等デザイン・レイアウト支援
 - (7) 山脇デザイン室
6. コミュニティビジネスの開発・支援
7. まちづくりを担う市民団体等に対する支援
 - (8) 派遣事業
 - 都市再生大学
 - 地域学習活動支援交流セミナー
 - 中社連福祉部会定例勉強会
 - (9) 自治会再生のためのモデル事業
 - 参加型タウン誌の発行とその作成プログラムの開発 -

. 運営に関する事項

1 . 定例会の開催

まちなか研究所わくわくの運営に関して週 1 回の開催を原則として定例会を開催した。

準備会	2004 年 4 月 11 日 (日)	第 11 回	7 月 21 日 (水)
第 1 回	4 月 17 日 (土)	第 12 回	7 月 31 日 (土)
第 2 回	4 月 23 日 (金)	第 13 回	8 月 28 日 (土)
第 3 回	5 月 9 日 (日)	第 14 回	9 月 4 日 (土)
第 4 回	5 月 14 日 (金)	第 15 回	9 月 18 日 (土)
第 5 回	5 月 22 日 (土)	第 16 回	9 月 27 日 (月)
第 6 回	6 月 3 日 (木)	第 17 回	10 月 2 日 (土)
第 7 回	6 月 15 日 (火)	第 18 回	10 月 9 日 (土)
第 8 回	6 月 18 日 (金)	第 19 回	10 月 16 日 (土)
第 9 回	6 月 24 日 (木)	第 20 回	10 月 23 日 (土)
第 10 回	7 月 3 日 (土)		

11 月より定例会の機能を常務会に移行

2 . 常務会の開催

第 1 回	2004 年 11 月 3 日	第 9 回	1 月 29 日 (土)
第 2 回	11 月 6 日 (土)	第 10 回	2 月 4 日 (金)
第 3 回	11 月 18 日 (木)	第 11 回	2 月 16 日 (水)
第 4 回	12 月 4 日 (土)	第 12 回	2 月 26 日 (土)
第 5 回	12 月 25 日 (土)	第 13 回	3 月 5 日 (土)
第 6 回	2005 年 1 月 8 日 (土)	第 14 回	3 月 12 日 (土)
第 7 回	1 月 15 日 (土)	第 15 回	3 月 19 日 (土)
第 8 回	1 月 22 日 (土)	第 16 回	3 月 26 日 (土)

3 . 特定非営利活動法人設立に向けて

設立総会 2004 年 8 月 16 日 (月)

第 1 回理事会 2004 年 10 月 27 日 (水)

特定非営利活動法人設立認証申請 2004 年 12 月 1 日 (水)

第 2 回理事会 2005 年 1 月 5 日 (水)

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく設立認証 2005 年 2 月 15 日

特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく設立登記 2005 年 2 月 25 日

4 . その他

まちなか研究所わくわく理念設定ワークショップ 2004 年 5 月 17 日 (月)

会計・税務勉強会 2004 年 5 月 21 日 (金)

労務勉強会 2004 年 5 月 22 日 (土)

桜坂 Village 開所式 2004 年 5 月 30 日 (日)

まちなか研究所わくわく中長期ビジョン策定合宿

2004 年 12 月 27 日 (月) ~ 28 日 (火)

・ 事業に関する事項

1. まちづくりに関する調査研究

(1) 勤労者ボランティア受け入れ実態調査

受託先： 沖縄県社会福祉協議会

受託金額： 250,000 円

背景： 近年、地域社会における様々な問題が多様化していく中で、地域に暮らす市民としての立場から多くの人々が市民活動を行ったり、またボランティアとして市民活動に参加したり動きが活発になってきている。そうした動きは営利を目的とせず、政府からも独立した市民活動を行う NPO という組織に見て取れる。そうした NPO が自らの掲げるミッションを実現していくためには、必要な人材を見極め、確保し、それぞれの能力が最大限に活かされる必要がある。しかし、現在の沖縄の現状は、まだまだ模索段階であり、今 NPO にはそうした人材をマネジメントする力が求められている。

目的： 本調査では、NPO を対象とし、

沖縄県内において、市民が参加できる場を提供している NPO の組織の実態を把握する。

NPO の人の力を活かす力（人力活力）を以下の 5 つの力から分析を行う。

1. どんな人材がどれだけ必要なのか考える力
2. 人材を受け入れられる体制を用意できる力
3. 人材を募集するために情報を発信する力
4. 受け入れたい人材がどうかを見極める力
5. 継続的に関わりを持ってもらえるように働きかけ、育てる力

から NPO が人を受け入れる際の指標として「人力活力」の可能性を探る。

以上 ～ を目的として、本調査を実施した。

対象： 沖縄県内で活動する 50 団体の NPO

内容： 2004 年 10 月～2005 年 3 月にかけて、対象団体の組織運営に関わる立場の人に対しての直接聞き取り調査を行い、調査結果は報告書としてまとめた。

報告書は印刷製本をし、まちなか研究所わくわくとして販売を行う予定である。

成果：

- ・ 県内で活動する NPO、50 団体の組織の実態について把握することができた。
- ・ 人の力を活かす力（人力活力）の検証と提案をすることができた。
- ・ 勤労者マルチライフ支援事業のホームページ「ぼらんていあ・ねっと」への登録情報を獲得できた。

2. まちづくりに関する政策等の提案

(2) なはまちつくる議会

受託： プロジェクト未来なは(那覇市教育委員会)

実施日： 2004年6月～2005年3月

対象： これから那覇のまちをつくる人間になる10代・20代の若者

内容： これから那覇のまちをつくる人間になる10代・20代の若者が議員となり「10年後の『未来なは』をどうつくっていきたいか」「自分達は『未来なは』をつくるためにどう動いていくか」について話し合い、『未来なは』実現に向けた計画をつくっていく参加型の会議です。

目標：

- ・近い将来の那覇を市民みんなで考え、納得してつくっていけるようなきっかけとする。
- ・現在10代、20代の若者が集まり、那覇の未来について今から考え、自らが動いていけるきっかけをつくる。

成果：

- ・『僕らのマニフェスト』として、10代、20代の若者が創り上げたい10年後の未来なはを描き、一人ひとりが何をしていくか、考えることができた
- ・10代、20代の若者のネットワークをつくるきっかけにできた
- ・那覇市教育委員会等から高い評価を受けた

課題：

- ・中身の成果よりも、「つながりをつくる」「個人の想いを表現する」ということに重点がおかれたため、WSでできたプランが実際の社会に直接活かされるように、詰めることができなかった。
- ・今後の展開が求められている

3. まちづくりに関する情報収集と提供

(3) 地域情報誌「み～きゆるきゆる」発行事業

発行目的： 日々刻々と移り変わる那覇のまちのなかで、まちの何を残し、何を開発していくのか、ということの議論が日常の中で起こってくる。そうした議論の出発点として、まちの成り立ちを知り、伝えていくことが重要であるとの考えから、那覇中心部一帯(国際通り周辺)を対象として、地元の人が自らのまちのことを知り、楽しみ、そして自らの手でつくる地域情報誌を目指して発行する。

対象エリア： 国際通り周辺

読者ターゲット： 地域に暮らす人々(居住者、通勤者、来街者、等)

参加型情報誌づくりの意義

1. まちの当事者になる
2. それぞれの本業等のネットワークの活用
3. まちづくりに関心を持つ人が集まる機会
4. まちを語る人が増える

2004年夏号発行

- ・特集エリア： 桜坂
- ・発行日： 2004年8月1日
- ・印刷部数： 1000部
- ・価格： 360円
- ・作成期間： 2004年5月～7月

2005年冬号発行

- ・特集エリア： 久茂地
- ・発行日： 2005年2月28日
- ・印刷部数： 1000部
- ・価格： 360円
- ・作成期間： 2004年10月～2005年2月
- ・「自治会再生のためのモデル事業 - 参加型タウン誌の発行とその作成プログラムの開発 -」の対象地区の調査として位置づけた

販売方法

・**手売り**： 作成に関ったメンバーを中心に定価 360 円で販売を行った。メンバーそれぞれの持つネットワークを活用し、継続的に行っている販売方法である。

・**店舗委託販売**： み～きゆるきゆる作成に伴う取材活動を通じてつながりのできた店舗等を中心に販売について委託を行った。

【2004年夏号 委託先】

アースの会 [エコショップ ZEN] (2004年8月8日～2005年3月)【閉店】

/ 掛け率 0.9

おつた (2004年8月17日～現在) / 掛け率 1.0

Café fish pool (2004年8月19日～9月2日) / 掛け率 0.833

Raffles Café (2004年8月19日～12月17日) / 掛け率 0.833

大道コミュニティサロン (2004年8月25日～現在) / 掛け率 0.8

桜坂シネコン琉映 (2004年8月27日～2005年3月10日)【閉館】 / 掛け率 0.8

ばんぱく (2004年9月4日～)【閉店】 / 掛け率 1.0

コントラバス (2004年10月4日～現在) / 掛け率 0.8

ストアハマミヤ (2004年10月25日～現在) / 掛け率 0.8

ヒーロー (2004年12月29日～現在) / 掛け率 0.8

株式会社沖縄教販 (2005年3月16日～現在) / 掛け率 0.8

【2005年冬号 委託先】

ヒーロー (2005年3月11日～現在) / 掛け率 0.8

株式会社沖縄教販 (2005年3月16日～現在) / 掛け率 0.8

知念さん [個人] (2005年3月31日～現在) / 掛け率 1.0

アースの会 [エコシップえころん] (2005年5月18日～) / 掛け率 0.8

・**店舗買取**： 店舗等で委託ではなく、買取をしていただくことができた。

【買取先】

アースの会 [エコシップえころん]

・**出店**： 研修やイベント等において、会場の一部で販売をさせていただくことができた。

【出店先】

牧志第二公設市場跡地整備計画ワークショップ

(主催：まちなか研究所わくわく、地域活性化協力隊) / 2004年8月6日

NPO 講座 (主催：那覇市 NPO 活動支援センター) / 2004年9月7日

なはまちつくる議会議員トレーニング合宿

(主催：プロジェクト未来なは・那覇市教育委員会) 2004年9月25日

まちわく & NPO センター共同開催シンポジウム / 2005年4月2日

・**ネット通販**： 社会へ広くみ～きゆるきゆるの存在をアピールすることと、離島や県外などからの注文を受け付けられる体制の構築を目的として、ホームページからの通信販売を 2005年3月からスタートした。

販売数 / 売上

(2005 年 3 月 31 日現在)

	2004 年夏号(2004 年 8 月～)		2005 年冬号(2005 年 3 月～)		合計	
	販売数(冊)	売上(円)	販売数(冊)	売上(円)	販売数(冊)	売上(円)
手売り	246	88,560	54	19,440	300	108,000
委託販売	61	18,408	0	0	61	18,408
店舗買取	0	0	0	0	0	0
出店	18	6,480	0	0	18	6,480
通販	0	0	0	0	0	0
合計	325	113,448	54	19,440	379	132,888

寄付金： 定価 360 円のみ～きゆるきゆるを購入する際に、500 円玉や千円札を出し、お釣はとっという方からのお金を寄付金として扱った。

【寄付金額】10,514 円(2005 年 5 月 20 日現在)

課題

- ・み～きゆるきゆる作成に参加した皆が納得できるつくり方
- ・情報誌としてのクオリティの向上
- ・情報収集の方法等の習得と確立
- ・販路の拡大
- ・地域への関わり方(発行後のかかわり方)

4. まちづくりに関する参加型の話し合いの場の企画・運営

(4) 字砂辺市民農園・公園ワークショップ

助成先： 株式会社国建

事業費： 750,000 円

概要： まちづくり構想策定支援事業の基本計画案策定として北谷町字砂辺集落に点在する国有地を市民農園・公園として活用するためのワークショップを株式会社国建から受託。

対象地区： 北谷町字砂辺

内容： 市民農園公園ワークショップを開催。

第 1 回「ご近所探検、市民農園、公園づくり」

第 2 回「市民農園・公園プランづくり」

第 3 回「計画案を検討しよう」(順延)

報告書の作成

成果：

- ・市民農園・公園 WS 案の作成

課題：

- ・基本構想 WS(国建開催)の到達点が砂辺住民の中では理解されていなかった。

その為、市民農園・公園 WS の開催についても疑問をもっていた。そこまで振り返っての WS の流れを組む事ができなかった。

・参加の枠組みのデザインがまちわくで担えなかったため、WS の場が決定の場となり得なかった。

(5) 久米島地域福祉計画

助成先： システムエッグ

事業費： 45,000 円

概要： 久米島の地域福祉計画策定の WS の受託。

対象地区： 久米島

内容： 地域福祉計画の説明会

課題：

・3回もののワークショップであったが、まちわくとして人数がそろわなかった為一回だけの受託となった。WS の開催予定がずれていったとはいえ、WS の運営人数がそろわないと言う消極的理由で断らざるを得なかったのは今後このような場合の対応を考える必要がある。優先順位の考え方。

(6) 牧志第二公設市場跡地整備計画意見交換会

事業名： 牧志第二公設市場跡地整備計画意見交換会

受託： 自主事業

実施日： 2004 年 8 月

対象： 牧志第二公設市場跡地周辺地域住民・那覇市行政職員

内容： 行政主導で進められるようとしていた牧志第二公設市場跡地整備計画に待ったをかけて、周辺地域住民と行政職員が意見交換し、より地域住民が望む整備ができるような話し合いの場をつくった。

目標：

- ・地域住民へ牧志第二公設市場跡地の整備をきっかけに、那覇のまちづくりについて、考えるきっかけをつくること
- ・那覇市行政の考え、情報を地域住民に伝えること
- ・牧志第二公設市場跡地整備を、より地域住民の納得いくように進めること

成果：

- ・話し合いの場をつくることができた
- ・意見交換会をきっかけに、地域住民とともに、那覇のまちを考え、動いていくきっかけをつくることができた
- ・『まちなか研究所わくわく』のメンバーをまちの人に認知してもらい、信頼を得られる機会となった

課題：

- ・自腹で動いていく限界が見え始めているので、何らかの方法で、どこからか対価をとれる仕組みをつくっていく必要がある

- ・那覇のまちの地域の人々との今後の関わり方について、地域住民が、主体的に、持続可能な形で、動いていけるサポートの仕方を考え、動いていく必要がある。

5. まちづくりに関する建造物・印刷物等デザイン・レイアウト支援

(7) 山脇デザイン室

受託先： (特活)風のうた・子育て支援ネットワーク

事業概要： 団体の紹介や活動内容を紹介するホームページを作成
<http://www.kazenouta.net/>

成 果： 半年間で1700のアクセス有り。更新を継続の方向へ

受託先： ピースラブマチグワー & 壺屋まつり実行委員会

事業概要： 那覇の中心商店街活性化のための祭告知ポスター作成
成 果： 多くの方に祭をアピール

事業名： KOKOLOプロジェクト

受託先： (特活)ライフサポートてだこ 代表：松本哲治

事業概要： 難病の子ども達の夢を叶える活動展開のため、団体のロゴマークを作成。

成 果： 活動の内容に説得力を持たせることができ、多くの団体・企業に活動をアピールを展開。

受託先： (特活)国頭ツーリズム協会

事業概要： 団体の紹介や活動内容を紹介や会員の募集パンフレット作成
成 果： 多くの方へ団体の魅力をアピール

受託先： 沖縄NGO活動推進協議会

事業概要： NGO 列島縦断フォーラム沖縄ブロックの告知パンフレット
成 果： 担当の方には大変喜んでいただきました

受託先： ONE (沖縄自然体験ネットワーク)

事業概要： こどもの自然テーマパーク(玉城村キッズパーク)のイメージ図作成

成 果： 事業を本格的に展開するにあたり、イメージ図を利用して、多くの方に説明するのに説得力を与えることができ、活動の手助けになった。

受託先： 沖縄県商店街振興組合連合会

事業概要： 国際中央通りの建物外観をリアルに再現した新しいマップの作成

成 果： 街ゆく人に、新しい国際通りの見方や面白さをアピール

6. コミュニティビジネスの開発・支援

7. まちづくりを担う市民団体等に対する支援

(8) 派遣事業

都市再生大学

派遣スタッフ： 小阪亘(まちわく理事)

セミナーテーマ：国際通りを中心としたストーリー演出によるまちづくり

主 催： 那覇市 都市再生機構

派遣内容： まちづくり系教官として参加「ワークショップの進め方」について講義グループワークに参加

日 時：平成16年12月4、5、8、15日

平成17年1月12、19、26日

成 果：

・行政、地域、学生がまちづくりの共同体験を共有することにより、より濃いネットワークができた。

・まちの将来ビジョンを4つの案が作成され提案された。

課題

・全体事業受託のタイミングをどのようにはかるか。4月から行政、機構と調整してきたが最終的にコンサルが受託していった。

・報告会後の動きが全くなく、一発ものになってしまっている。出来た企画やネットワークを有効に活用していくことが望まれる。

地域学習活動支援交流セミナー

派遣スタッフ： 宮道喜一(まちわく理事)

セミナーテーマ： 地域学習活動の推進について - 地域NPOと行政・学校とのパートナーシップの在り方 -

主 催： 沖縄県教育委員会

派遣内容： パネラーとして「『牧志第二公設市場跡地整備計画意見交換会』からみる、NPOと行政との協働」を発表

日 時：平成17年2月10日(木)

成 果： 3名のパネリストがいる中で、「協働」の理論の部分についても発表することで、参加者は、事例をより深く理解し聞くことができたと考えられる。

中社連福祉部会定例勉強会

派遣スタッフ： 佐々倉玲於(まちわく理事)

(9) 自治会再生のためのモデル事業

- 参加型タウン誌の発行とその作成プログラムの開発 -

助成先： 沖縄銀行ふるさと振興基金

助成金額： 200,000 円

目的： 対象地区(本事業では久茂地小学校区)の地域住民を中心として、参加型でタウン誌を作成・発行する。本事業に関わる地域住民同士のつながりをつくりつつ、そのメンバーやタウン誌を媒介して、地域のつながりを広げ、深めていくことを目的とする。さらに、この取り組みを、地域住民だけで行っていけるように研究し、他地域でも地域住民が取り組んでいけるように、本事業をモデル化していく。

対象地区： 久茂地小学校区

内容： 本事業では初年度としての取り組みとして、地域情報誌「み～きゆるきゆる」第2号の対象地を「久茂地」とし、対象地区の調査という位置づけで、久茂地に住む人の参加を得ながら、公民館や久茂地の歴史、久茂地に暮らす子ども達の遊びの実態などの情報収集と参加型タウン誌のプログラムづくりを行った。

成果：

- ・参加型タウン誌づくりのプログラム作成と実践を行えた。
- ・久茂地に暮らす人が若干1名ながら情報誌づくりに参加してくれた。
- ・取材活動を通じて、公民館など地域の活動組織とまちあるきなどの継続した連携を模索できる関係をつくることができた。
- ・地域の課題として取り組みやすい「子どもの遊び場」というテーマについて、タウン誌を作り上げる中で調査することができ、その結果からまちの現状を把握し、地域として何に取り組んでいく必要があるのか考える材料をつくることができた。

課題：

- ・地域住民が主体となり、継続してタウン誌の発行を行うという仕掛けをすることができていない。
- ・そのため、地域住民同士のつながりを広げ、深めていくことという目的を十分には果たせなかった。

まとめ： 参加型タウン誌作成のプログラムの構築については、一定の成果を確認できたが、「自治会再生」については、再生に向けての十分な成果を確認することができなかった。那覇というまちでの自治会機能の再生をテーマとした調査研究が求められる。